

授業科目 救急法実習 II

【担当教員名】  大滝 弘		対象学年	2	対象学科	スポ
		開講時期	後期	必修選択	選択
		単位数	1	時間数	30
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	◎	◎	◎	
【概要・一般目標：G10】 スポーツ指導者として現場に必要な救急法の実践能力を習得することはもとより、救急法を学ぶことにより指導者として高い安全知識と事故防止に対する能力を身につける。					
【学習目標】 救急法の理論を正しく理解し、より合理的な実践能力と判断力を養う。 1. 傷病者に対する適切な観察力と判断力を身につける。 2. 傷病者（意識障害、呼吸停止、心停止、大出血、服毒、熱傷）に対しての正しい応急手当ができる。 3. 救急処置（心肺蘇生法、AED、RICE、緊急時の対応）を理解し実践できる。 4. 事故、災害に対する安全知識を身につける。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	救急処置（RICE、緊急時の対応について）				実技テスト  実技テスト  期末テスト（理論）
2	救急処置（RICE、緊急時の対応について、傷についての理解と止血法）				
3	救急処置（RICE、緊急時の対応について、各部のけがと手当の実際）				
4	救急処置（包帯法 実習1）				
5	救急処置（包帯法 実習2）				
6	救急処置（包帯法 実習3）				
7	救急処置（骨折の分類、観察、手当について）				
8	救急処置（固定法 実習1）				
9	救急処置（固定法 実習2）				
10	救急処置（緊急時の対応、脱臼、捻挫、打撲、肉離れ、腱の断裂について）				
11	救急処置（緊急時の対応、心臓発作、心不全、脳卒中、呼吸困難、腹痛について）				
12	救急処置（緊急時の対応、発熱、脳貧血、中毒、暑熱障害、異物について）				
13	搬送法の実際と応用担架について				
14	災害救護とその対応（地震、水害）				
15	救急処置（傷と止血、骨折、脱臼、捻挫、急病、搬送、救護についての理解）				
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		救急法講習教本	日本赤十字社	日赤会館	2001・1,000円
		公認アスレティックトレーナー専門テキスト第8巻 救急処置	日本赤十字社	日本体育協会	2007・3,100円
参考書		スポーツ現場における 救急処置のポイント	浅井宏祐	文光堂	1998・7,350円
その他の資料			東京消防庁	東京法令	2004・3,990円
【評価方法】 出席 実技テスト 期末試験			【履修上の留意点】		